2027

女性のための登山用カメラケース

Camera Case for Mountain Climbing

AD31 前田 詩帆
指導教員 谷上 欣也

1. 研究目的

数年に渡り、30代独身女性の間で流行の衰えのない登山とカメラの関係性に改めて注目した。登山に行くと風景や名物を撮影し、それを SNS に載せることも多い。登山とカメラ、この2つに特化した機能を備えたカメラケースというのは未だにない。そこで本研究ではストレスなく使用できるカメラケースの提案を行う。

2. 調査と分析

「山ガール」、「カメラ女子」という言葉がさまざまなメディアで取り上げられ、カメラを持って登山をする30代独身女性が急増している。なぜそれが30代独身女性の間で流行しているのか、そしてどのような傾向が見られるのかを雑誌、ネット及び現地調査での情報収集を行った。その結果、仕事や人間関係にも慣れ、自分の為にお金を使う事ができる人が多いことがわかった。そうした女性は自分のためにならばお金をかけることは惜しまない傾向があるため、決して安くないカメラや登山ウェアもトータルで揃えることが多い。山ガールの WEB サイトを見ても、一つ一つのアイテムが全てファッショナブルに揃えてあることから、こだわりが強いことが伺える。また、同年代の同僚や友人と登山をするケースが多く、よりファッション性の高い物を見せ合い満足しているという結果がある。この分析結果により、本研究目的であるカメラケースも機能性を持ちつつ、デザイン性よりもファッション性の高いものにすることに決定した。

3. コンセプトの立案

「使って便利、持っててお洒落」

- 取り出しやすく、すぐに撮影できる
- ファッション性重視
- カメラの保護
- レンズキャップの紛失防止

4. デザイン展開

ケースをデザインするにあたり、山ガールの使用する機種を調査したところ、ミラーレス一眼カメラが主流であることがわかった。それを踏まえ一次モデルでは、どんな機種でも使える事を想定して制作を行ったが、想定よりもメーカーによってサイズや重さが大きく異なることから当初の目標をクリアするのは無理と判断した。二次モデルは調査の際に一番持っている人の多かった「PENTAX Q」を基準にして制作を行った。重要なのは耐久性、衝撃吸収性であるが、一次モデルは厚手の布のみで製作したため衝撃吸収性に乏しかった。改良した二次モデルでは、布との間に5mm 厚のスポンジを1枚追加したが、耐久性にはまだ問題があった。最終モデルでは部分的に薄い樹脂板を挟み、スポンジの枚数や厚さを変えることにより、耐久性、衝撃吸収性の問題を解決させた。装着方法に関しては当初、首からかけるストラップ方式を考えていたが、首に負担がかかり、また登山で転倒した際に危険であると判断した。ズボンの腰部分やリュックの肩紐等に付けられるように厚手のバイアステープとカラビナによる固定方法とした。また、カメラを固定する留め具をマグネットボタンにすることにより、スムーズな開閉を可能にし、取り出しやすくなった。さらにケースの内側にレンズキャップポケットを付けることによりレンズキャップの紛失防止も可能にした。

5. 完成図

6. 結論

実際に山ガールに使用してもらったところ「使いやすい」、「取り出しやすいので、今までよりも写真を撮る機会が増えそう」などという意見をいただけた。腰回りに装着するように設定したため、首回りにかけていた場合の煩わしさも改善することができた。しかし、リュックに装着してみると固定が甘く、カメラへの衝撃を心配する声も聞かれた。今回は1種類の生地のみでしか制作できなかったが、バリエーションを増やすことによりファッション性の高い山ガールにも受け入れられるようになると考える。

文 献

[1] 山ガールネット, http://www.yamagirl.net/
(参照 2013-11-15)